

大後栄治総監督(恩師)が語る大学時代

「目線が外を向いていて、

ほかの選手とはちよつと違った」



大後栄治
神奈川大学陸上競技部部長
兼総監督(当時監督)、
関東学連業務執行理事副会長

神奈川大学時代にこわた君を指導した大後栄治総監督(当時監督)に
当時は振り返っていただきました。



神奈川大学4年時に箱根駅伝9区に出走した(写真/本人提供)

古和田は綾部高校(京都)時代に3000m障害でインターハイに出場し、本学を志望して入部してくれました。最初に走りを見た時は「長い距離に対応できる素養はある」と感じましたが、まだ身体ができていませんでした。箱根駅伝を目指すことは並大抵のことではなく、当時の古和田の体力・筋力ではいっばいっばいだったはずなので、苦労した4年間だったと思います。

1年目は春先こそ好調でしたが、夏以降は中臀筋の違和感が取れず、2月までずっとリハビリをしていた記録が残っています。2年目の前半もジョグしかできず、3年目も大きく飛躍できない中で、夏は4回の合宿に全て参加できるようになり、30km走も初めて消化。4年目で箱

根駅伝予選会と本番の9区を走りました。

チームにはトレーナーがいるので彼もケアについて相談していましたが、自分でも研究していたのでしよう。思うように走れなくてもあきらめなかつたからこそ、3年目以降に努力が実り始めたのだと思います。

駅伝チームでは人間科学部のスポーツ健康コースに入る選手が多い中、古和田は人間社会コースでした。社会学の平井誠先生のゼミで頑張っていたので学内でも応援されており、本人からも「自分がやっていることを発信できないかと考えているんです」と話してくれたこともありました。目線が外に向いていて、ほかの選手とはちよつと違うと感じましたね。そういった社会に何かを提案したいという志向が、

今の活動にもつながっているのだと思います。

大学を卒業してから本人と会う機会はまだまだありませんが、大会の時など市民ランナーの方から「古和田さんのクラブで走っています」と声をかけられることもあります。そういう方はみんな楽しそうで、「ランニングには興味があつたのにハマつた」という話をよく聞きます。パリパリランピックで伴走したのも、周りの方が彼を評価しているからこそ実現したものだと思います。苦しい4年間を経て箱根駅伝を走つたアスリートとしての経験と、それは違うランニングの楽しさの両方を知っていることが武器になつていて立派なものです。これからも古和田らしい味を出して活躍することを期待しています。

セルフケアの4種の神器、

新レースディレクターインタビュー 「健康の大切さを訴え続けることが 東京マラソンの使命」

東京マラソン財団 大嶋康弘さん(55歳)

文/吉田誠一 写真/軍記ひろし



おおしま やすひろ
東京マラソン財団レースディレクター
室長。日本大学スポーツ科学部教授。
成田高校から日本体育大学に進み、
棒高跳びに打ち込む。日本陸上競技連盟
事業部長などを経て、23年9月に東京マラソン財団
アシスタントレースディレクターに就任。24年4月
からレースディレクターとなる。フルマラソン
自己ベストは4時間9分

東京マラソン財団入り口で

今年4月、長年東京マラソンのレースディレクターを務めてきた早野忠昭理事長から引き継いだのが大嶋康弘さんだ。棒高跳びが専門だった選手時代や市民ランナーとしての経験も活かし、今後どのような大会を目指すのか伺った。

「日本選手が世界のレベルを感じ、そこに近づく舞台を提供したい」



夫婦ともがんとを経験
健康のために走る意味を実感

——来年の東京マラソンに向けて招待選手の招聘交渉を進めているかと思えます。レースディレクターとして東京マラソンをどんなレースにしたいと考えていますか。

「前任者の早野（現東京マラソン財団理事長）が進めてきたことを引き継いで、これまで通り、好記録の出るレースにしていきたいです。もう一つは、トラック種目で活躍しているスピードのある国内外の若い選手がマラソンデビューする場にしていきたいと考えています。これからの選手に、記録が出やすい東京のコースの特性を利用してもらいたい」

——早野さんはワールドスタントラードを目指して、エリウド・キプチョゲ（ケニア）ら海外のトップクラスの選手を集め、世界記録が出るようなレースづくりをしてきました。

「今後も世界から素晴らしい選

手をたくさん呼んで、見応えのあるレースにしたいと思えます。現在はケニア、エチオピア、ウガンダといった東アフリカの選手が世界のマラソン界をリードしています。そのうちのトップ選手20人くらいが東京で一同に会するというようなことを節目、節目で実現させたいと考えています」

——世界のトップレベルの選手を招聘する際に、どんな殺し文句を使いますか。

「『真の世界一を決める大会に出てみたいありませんか？』ですね。オリンピックも世界選手権も国ごとに出場枠の上限があるので、ケニアやエチオピアには力があるのに出場できていない選手がいます。その枠のない東京マラソンならトップ20人が集まる大会ができます」

——よりレベルの高いレースにすれば日本選手の強化につながります。

「私は棒高跳びの選手だったので、長距離種目は専門ではありませんが、マラソンは日本選手が世界で活躍できる種目だと信じています。東京の舞台を使って世界のレベルを感じてそこに近づき、ゆくゆくはリードしてほしい」

——日本の選手は国際的なチャレンジの機会が限られている印象です。

「私が現役の頃は、オリンピックの決勝に残るような力のある選手でないと、海外遠征に行かしてもらえませんでした。私の場合、行ったのは近場の中国、台湾くらいでした。今は以前よりは海外に行く選手が増えていくものの、状況は大きく変わっていません。選手たちには海外合宿にとどまらず、国外の大会を転戦して武者修行をしてほしいです。そうした遠征をする一つのキッカケに東京がなればと思っています」

——ところで、大嶋さんもマラソンを走っているようですが、ランニングを始めたのはいつですか。

「現役のときから、軽く身体を動かして疲労を回復させる『アクティブレスト』の日はゆっくり走っていました。千葉の成田高校時代は学校の裏山のクロスカントリーコースでのジョギングが習慣でした。マラソンを走ってみようと思ったのはニュージーランド出身の妻の影響です。旅行を兼ねて大会に出るようになりました。サブフォーを狙っていたのですが、そこまではいけませんでした」

——奥様は普段から走っているのですか。

「ウェブ上で『ストリーク・ランナー・インターナショナル』という組織に登録して、11年以上、毎日走っています。1日最低1マイル（1.6km）走ればランニングを継続したことになるルールですが、妻は最低2kmと決めています。仕事をしながら、海外出張もあるのに、よく

やるなと感心します。台風が来ようが、雪が降ろうが走りまわりますから」

——海外出張の時は飛行機に半日以上、乗ることがあると思いますが。

「乗り継ぎのときに空港で走ります。アムステルダムのスキポール空港内で2km走ったというのだから驚きます。注意されるといけないので、パスポートを手にして急いでいると見せかけたそうです（笑）」

——走ることで健康を維持するということを、まさに体現していますね。

「実は妻も私のがんを経験しています。健康を考え、走っているのはその影響かもしれませんが、妻は乳がんを手術する朝も主治医の許可を得て走りまわりました。術後も看護師が見えるところでという条件つきで、病棟の1周40mの中庭を何十周もしました」

——大嶋さんはいつ、がんを患ったのですか。

「29歳のときに睾丸にがんが見つかり、摘出手術と放射線治療を受けました。腫瘍が悪性と聞いたときは、1年後はこの景色

「妻も私も、がんからの回復が早かったのは運動をしていたから」

今年の東京マラソンの完走者は約3万5000人。より多様な人々が参加できる大会を目指している





財団は東京マラソン以外にもイベントを実施しており、9月28～29日には6時間リレーマラソンなどを行うTOKYO ROKUTAI FESを開催した。

を見ることはできないかもしれないと落ち込みました。健康的な生活をしてきたつもりなのに、がんになったので、なおさら健康に気をつけるようになりました。妻も私も回復が早かったのは運動をしていたからのよ

うです。持久系の運動をしているかどうかで、回復の早さに差が出るという研究結果もあると聞きました」

1人でも多くの人に達成感を味わってほしい

「再び大会運営について伺います。「世界一、開かれた大会運営と時代に合わせた大会の見え方」を目指す」と謳っています。そのために取り組んでいることを教えてください。

「多様性のある時代に合わせて、より開かれた大会にするため、25年大会から一般の部の性別の選択肢にノンバイナリーを加えました。さらにDUOチームの参加を試行実施します。脳性まひなど重度の障害がある方が専用バギーに乗り、それを押すランナーとチームを組んでの参加です。AbbottWMMの他の大会ではすでに導入されています」

「それはミッシェロンに掲げた「走る楽しさで、未来を変えていく(人と人をつなぐ・健康な毎日をつくる・社会をよくする)」に基づくものですね。

「生活の中にスポーツが入っていくことが、幸せな人生、幸せな世界につながります。そのために、多くの方が東京マラソンに参加し、何かを達成してほしい。ノンバイナリーとDUOを設けたのはそのためです。1人でも多くの方に達成感を味わってもらいたい」

「そのためにできることは、ほかにもありますか。」

「東京マラソンには7時間という制限時間があり、最後のプロクから出ると実質6時間30分ほどです。AbbottWMMには制限時間をもっと長い大会もあります。時間を超えてしまつたら別の場所にフィニッシュできるような対処もしています。参加をするだけでなく、多くの方に達成感を味わっていただくためにそういうことも考えていく必要があります」

「時代に合わせた大会の見え方、参加者の満足度向上を目指すとのことですが、具体的にどのようなことですか。」

「一番はスムーズな運営です。3万8000人がスタート地点の新宿に殺到するので、かつてはカオス状態になっていまし

た。様々な工夫を重ねて、満足していただける状態に近づけましたが、まだできることがあるはずなんです。スマホ1台でスポーツの観戦からグッズ購入、飲食までできる時代です。テクノロジーを駆使すれば、もっとスムーズな運営ができます。また、応援する方、沿道に住む方、商売をされている方にも満足していただける大会にしたいと思っています」

「ミッシェロンにある「健康な毎日をつくる」については、何が力ギになりますか。」

「スポーツイベントを開催する団体には、健康の大切さを啓発していく使命があります。東京マラソンには大きな発信力があるので、引き続きSNSなどを通じて幅広く啓発に努めていきます」

「これは先ほどおっしゃった「自身の経験を踏まえてのことなのでしょか。」

「はい。健康がベースになると、目標に向かって努力することが難しくなります。それを訴え続けることが我々の社会に対する貢献であり、それが東京マラソンの価値を高めると思っています」

「でんき」の「せんい」で

世界を変える。

PIECLLEX

大地を育み 未来を紡ぐ

PIECLLEX A Murata Company

ピエクレックスとは、村田製作所と帝人フロンティアの共同出資により誕生した合弁会社の社名であり、トウモロコシやサトウキビなど植物由来のポリ乳酸を原料としている「電気繊維」の名前でもあります。

特徴1 電気の繊維による「抗菌」

ピエクレックスは人の動きにより繊維が動く微弱な電気を発生させ、抗菌効果を発揮します。抗菌剤の塗布ではなく繊維自体の抗菌性によるものですので、安心してご使用いただけます。また、洗濯を何度行っても効果は持続します。

※抗菌効果とは、菌の増殖を抑える効果のことです。
※使用状況により効果は変わります。

特徴2 循環インフラ「P-FACTS」

ピエクレックスは繊維をつくるだけでなく、消費者が気軽に環境貢献を感じられる循環インフラまで提案します。それが、循環インフラ「P-FACTS」(ピーファクツ)。使い古して廃棄される洋服などの繊維製品は、資源として回収された後、分解され堆肥となります。堆肥は農業や林業に利活用され、植物へと戻ります。

※「P-FACTS」: PIECLLEX FAbrics Composting Technology Solution

P-FACTSの循環インフライメージ

対応製品・回収の方法については、詳細はこちら

村田製作所の「でんき」、
帝人フロンティアの「せんい」、
それぞれが得意とする技術分野を融合して
新素材「ピエクレックス」を開発しました。

株式会社ピエクレックスは、村田製作所の100%子会社として、企業ビジョン「でんき(電気)のせんい(繊維)で世界を変える」を掲げ、電気の繊維「ピエクレックス」を通じた革新を推進しています。



電圧技術

株式会社
村田製作所

化学繊維技術

帝人フロンティア
株式会社

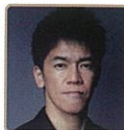
技術を
融合



圧電抗菌のイメージ(マルチフィラメント拡大イメージ)



発生する電気は「数V～数10V」と微弱であり、静電気の「1000V～3000V」とは違い、人には感じない程度で心配は全くありません。



ピエクレックスブランドアンバサダー 武井壮さん

1973年生まれ、東京都出身。タレント。2020年に環境省のサステナビリティ広報大使に就任。テレビ、ラジオ、映画、CMなど多方面で活躍中。2022年にピエクレックスのブランドアンバサダーに就任。

YouTube
配信!



ピエクレックス
コーポレートサイトはこちら

